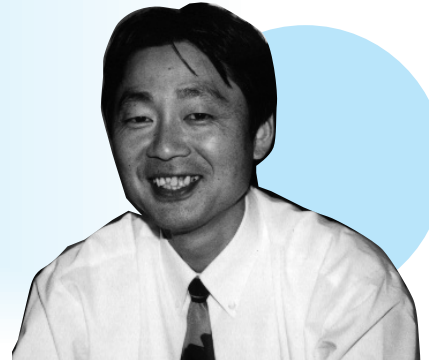


夢追い人



インテリアヨシオカ(株) 専務取締役 吉岡康成さん

くんぼう【薫風】という言葉がある。辞書を調べてみると、「初夏、草木の緑をとおして吹いてくる快い風」とある。今は秋であるが、家具産地大川には、まさしく薫風のような心地よい風が吹き始めている。

それはなぜだろうか？

未知の分野に挑戦する企業が増え続けているからだ。健康や環境、バリアフリーなどを視野に入れた製品作りである。

そうした企業の一つに、インテリアヨシオカ(株)がある。今回の夢追い人では専務取締役の吉岡康成さんにお話を伺ってみた。

◇

インテリアヨシオカ(株)では、ノンホルマリン、低ホルマリン家具の製造に昨年から取り組んでいる。

吉岡さんは、そのきっかけについてこう語る。「昨年の7月ホームコントラクト展で、杉を使った食器カウンターで大川市議会議長賞をいただきましたが、その後の商品展開について正直いきづまりを感じていました。デザイナーとともに新商品のコンセプトを模索する中、以前から関心があった環境問題と伝統的な材である杉の組み合わせを考えました。」こうして、ノンホルマリン家具「杉具」を発表することになる。「杉具」は国内杉の無垢材を使っており、合板にはホルマリン放出量をゼロのもの。芯材も天然木材で、接着剤もノンホルマリンである。塗装も、すべて天然素材からできたナチュラルオイルを使う徹底ぶりである。「ノンホルマリン、ナチュラルオイルにすること

で杉本来の香り、色合い、調湿性を保てるのです。安らぎや健やかさには欠かせないと思います。」

10月の13日から15日にかけて開かれた「99ユニオントップ・オリジナルフェア」では、新たにパイン材を用いたカントリー家具シリーズ「メルロー」を発表している。もっと幅広い消費者層に訴えかけるためだ。ノンホルマリンではないが、ホルムアルデヒドの放出量が「少ないF1合板(JAS)・EOボード(JIS)」といった国内最高規格の低ホルマリン商品に仕上がっている。

吉岡さんは「今後は健康や環境を意識した家具が主流になるとか」と思い、

と明言する。

なぜだろうか。「最近では安全なインテリアを求める消費者の声が高まっています。そうした中、主な住宅メーカー各社は『シックハウス症候群』を考慮に入れ、低ホルマリンの健康住宅を新増設して次々



発表しています。全国の大手家具店でも健康家具のブースを設けるところが多くなっています。来年の初め頃には、大手の小泉産業(株)が『健康宣言』と銘打って、低ホルマリンデスクをテレビ等で大々的にPRするようです。」と述べる。

また企業のあり方についてもこう話す。「激しい価格競争の最中、付加価値と結びつく健康志向商品づくりは、これから不可欠になるとかと思っています。ただ、それ以上に顧客に安全なものを提供したいと思うのは、企業として当然ではないでしょうか。」

◇

家具産地大川にあつて、バリアフリー、低ホルマリンなど健康・環境を重視した製品づくりに励む企業が増えてきているのは、心地よい涼風のようにだ。